

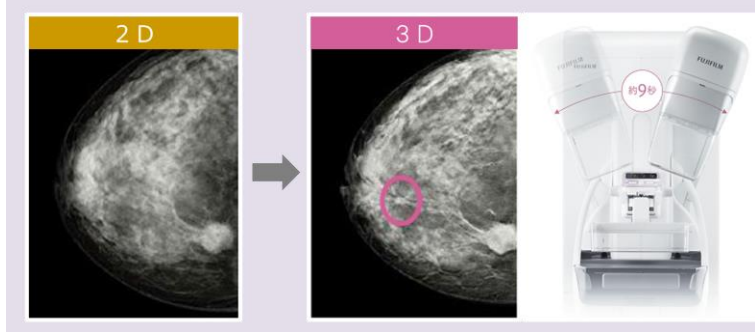
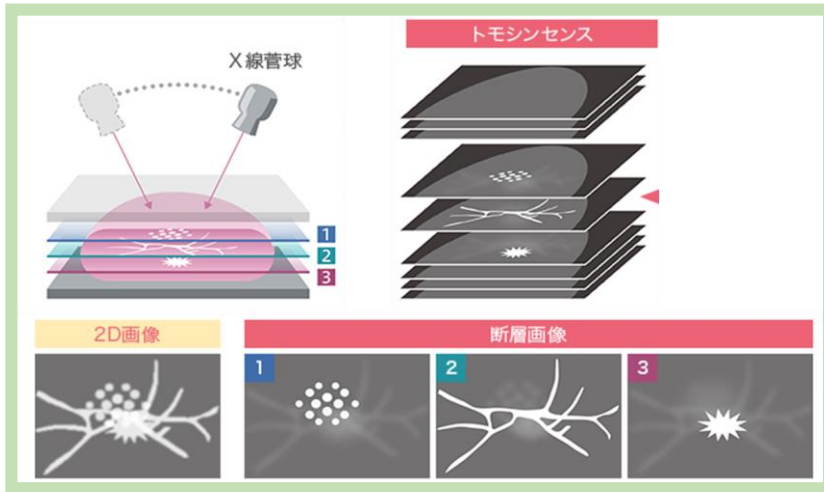
“もっとやさしく、もっと見やすく…”

最新鋭のトモシンセシス対応(3D)マンモグラフィ装置が
2019年9月19日より稼働しています。



3Dマンモグラフィの原理と特徴

3D撮影ではX線を多方向から当てることで、多層のデータが集まり、CT画像のように1ミリ毎の画像（断層画像）で確認ができます。従来のマンモグラフィでは乳腺の影に隠れて発見しづらかった小さな病変が、3Dマンモグラフィではより発見しやすくなりました。



3Dマンモグラフィの撮影方法

- ◆ 1回の圧迫で3D撮影と2D撮影を続けて行います。
- ◆ 2Dマンモグラフィに比べ1回の撮影時間が長くなります。
(3D (9秒) + 2D (3秒) = 12秒/回)
- ◆ 人工知能(AI)技術を搭載した最新鋭装置を導入しておりますので、3D + 2D撮影を行っても従来の2D撮影と被ばくはほとんど変わりません。

“とっても痛いのは一瞬だけ”

圧迫自動減圧制御 (Comfort Comp) 機能の“なごむね”は最大圧迫圧の時間を短縮することで、受診者の感じる痛みを軽減する機能です。少しでも負担を減らし、診断しやすい画像を提供いたします。

